

第25期 〔 自 平成 17 年 4 月 1 日 〕 営業報告書 至 平成 18 年 3 月 31 日

1. 営業の概況

営業の経過及び成果等

平成17年度は、沿線人口の減少等、依然として厳しい経営環境のなか、4月末のJR西日本の列車脱線事故等の重大鉄道事故の多発や、原油高騰による5月からの相次ぐ燃料軽油値上等で更に厳しい年となりましたが、沿線地域の生活路線、三陸海岸を縦断する観光路線として、安全で安定した輸送を目指して取り組んでまいりました。また、経営改善計画も前年初年度のように目標達成に向い社員の総力を結集して計画を推進してまいりました。

企画列車として「春の北リアス線・八戸線直通列車」、「リアス・シーライナー」、「がんばれ釜石シーウェイブス号」、「こたつ列車」、「つばき列車」等を、イベント列車として「お花見列車」、「もちつきと十五夜列車」、「クリスマス列車」、「新酒を楽しむ夕べ」、「初詣号」、「初日の出号」等を運行するとともに、沿線地域で「つつじの今出山登山」、「ミッドナイトウォーキング真崎トンネル」、「三鉄健康ウォーキング」、JR東日本盛駅と岩手開発鉄道と三社合同での「3鉄まつり」、「ファンクラブの集い」等のイベントを開催し増収に努めました。

この中で、今年で3回目となる「こたつ列車」は、こたつ部分の改善やみかん・山田せんべいのプレゼント等、車内サービスの充実を図り、お客様から好評を頂きました。今後も冬の三陸の名物列車とし定着させ誘客に努めてまいります。

観光客誘致に向け、5月と11月に大手業者に対するエージェントセールスを東京、大阪、名古屋において実施し、マスコミ各社に対するキャンペーンを東京、仙台、八戸、盛岡において実施しました。

県外エージェント主催による三陸鉄道を利用する団体客は、近年、順調に伸びを示していましたが、今年は9月に過去最高の 8,600 人となったものの、年度当初出足が悪かった

ことと、冬の記録的な豪雪の影響で北東北への入り込みが低調となり対前年比 102.4%、42,235 人の利用となりました。

岩手県三陸鉄道強化促進協議会と共に展開している「マイレール三鉄・沿線地域30万人運動」の一環として「マイレール30万人運動三陸鉄道乗車券」を5月と7月に販売し2,247千円の売上げがありました。また、沿線市町村、沿岸4振興局、三鉄友の会と共に利用促進のPRを実施しました。これからも沿線の方々のご支援を頂きながら地元利用の促進・増加に積極的に取り組んでまいります。

経営改善計画に基づき鉄道事業のスリム化を進めており、駅業務の乗務員移管と乗車券販売をパート社員が行う駅業務の効率化は5月1日の釜石駅、10月1日の盛駅の実施により完了いたしました。

安全向上対策として、鉄道近代化設備整備補助事業により前年からの継続の安家川橋梁防風柵工事が完了したほか、緊急保全整備の橋梁改修や南リアス線の風速・雨量監視装置の更新を実施しました。

列車を快適に利用していただくため、三陸鉄道アメニティー向上事業により北リアス線野田玉川駅～久慈駅間等で軌道強化工事を実施しました。

3月25日には、三陸鉄道イベント列車整備事業により製作を進めてきた新レトロ調車両「さんりくしおさいⅡ」が完成しました。新レトロ調車両が2両となり、更に地元団体の利用促進及び観光客誘致等に向け積極的にPRを進めてまいります。

4月のJR西日本福知山線の速度超過による列車脱線事故、12月のJR東日本羽越線の突風による列車脱線事故と重大な運転事故が多発し、鉄道への信頼が大きく損なわれた年でありました。当社では事故を受け直ちに社員への指導及び関係施設の緊急点検を実施し類似事故の防止を図りました。各鉄道事務所での異常時取扱訓練会、県の総合防災訓練と連携し列車脱線事故を想定した訓練会、年末年始の安全総点検の実施や各鉄道事務所での毎月の勉強会の推進により、社員への安全意識の再徹底を図り鉄道の安

全運行の確保に努めました。

平成17年度は、県外エージェント主催団体が前年度を若干上回ったものの、依然と続く地元利用客の低迷で乗車人員は1,057千人(対前年比98.7%)、旅客運輸収入381,528千円(消費税込み対前年比97.2%)となりました。

鉄道事業、関連事業全体では、職員の削減と効率化による経費の節減に努めましたが、燃料軽油価格の高騰があり営業費は対前年比98.4%の551,536千円、これに固定資産税を加えた経常支出は前年度より9,334千円減の573,250千円(対前年比98.4%)となりました。

営業収益は、鉄道事業が対前年比97.4%となり、関連事業が旅行業の海外旅行団体の収益率の悪化があり対前年比91.7%となり、全体では対前年比97.4%の431,932千円、これに営業外収益を加えた経常収益は452,709千円(対前年比97.4%)となり、経常損失は前年度より2,742千円増の120,541千円となりました。

なお、前年度経常損失額117,799千円に相当する額について岩手県から運営費補助金として交付していただいております、その他の特別損益等を加味すると、当期利益は11,673千円となりました。

平成18年度におきましても、三陸沿岸地域の公共交通機関としての使命を果たしていくため、安全輸送とサービスの改善になお一層努めるとともに、岩手県をはじめ沿線市町村のご支援をいただきながら、経営の安定化に向けて努力してまいります。

2. 会社の概況

(1) 主要な事業内容

- ア. 鉄道事業法による旅客運輸並びにこれに関連する事業
- イ. 旅行業法による第2種旅行業
- ウ. 損害保険代理店業
- エ. 物品販売業

(2) 事業所

本 社 盛岡市内丸 10 番 1 号

事務所 宮古総合鉄道事務所

宮古市栄町4番地

久慈鉄道事務所

久慈市川崎町 10 番 20 号

大船渡鉄道事務所

大船渡市盛町馬場 4 番4号

駅 有 人 4 駅 久慈・宮古・釜石・盛

無 人 21 駅 陸中宇部・陸中野田・野田玉川・堀内・白井海岸・
普代・田野畑・島越・小本・撰待・田老・佐羽根
一の渡・平田・唐丹・吉浜・三陸・甫嶺・小石浜
綾里・陸前赤崎

営業所及び店舗

三鉄ツアーリスト(旅行業) 宮古駅内、久慈駅内

リアスボックス(物品販売業) 宮古駅内

(参 考)

町村立等の観光センター 陸中野田・普代・田野畑・島越・小本・
設置箇所 田老・三陸・綾里の8駅

(3) 株式の状況

ア. 発行する株式の総数	100,000株
イ. 発行済株式総数	30,000株
ウ. 当期末株主数	48名

主 な 株 主 名	所 有 株 式 数 (持 株 比 率)	当社の当該株主への出資状況
岩 手 県	14,400株(48.0%)	0
宮 古 市	1,250株(4.2%)	0
(株) 岩 手 銀 行	1,200株(4.0%)	0
大 船 渡 市	1,150株(3.8%)	0
新 日 本 製 鐵 (株)	1,000株(3.3%)	0
東 北 電 力 (株)	1,000株(3.3%)	0
久 慈 市	650株(2.2%)	0
釜 石 市	650株(2.2%)	0

(4) 従業員の状況

区 分	従 業 員 数	前 期 末 比 増 減	平 均 年 齢	平 均 勤 続 年 数
男 性	64名	2名減	41.8才	17年11ヶ月
女 性	3名	—	33.5才	10年 9ヶ月
計	67名	2名減	41.4才	17年 7ヶ月

(注)この外に、臨時雇用社員が16名おります。

(5)営業成績及び財産の状況の推移

区 分	15年度 (第23期)	16年度 (第24期)	17年度 (第25期)
営 業 収 入	442,309千円	443,352千円	431,932千円
当 期 利 益		14,957千円	11,673千円
当 期 損 失	22,382千円		
1株当り当期利益		498円	389円
1株当り当期損失	746円		
資 産 合 計	334,714千円	458,101千円	552,408千円
資 本 合 計	196,828千円	211,786千円	223,459千円

(6)取締役及び監査役

(平成18年3月31日現在)

氏 名	会社における地位	兼 務 の 状 況
増 田 寛 也	取 締 役 会 長	岩 手 県 知 事
熊 坂 義 裕	取 締 役 副 会 長	宮 古 市 長
甘 竹 勝 郎	取 締 役 副 会 長	大 船 渡 市 長
山 内 隆 文	取 締 役 副 会 長	久 慈 市 長
小 沢 和 夫	取 締 役 副 会 長	釜 石 市 長
竹 澤 久 嗣	代 表 取 締 役 社 長	
谷 藤 裕 明	取 締 役	盛 岡 市 長
伊 達 勝 身	取 締 役	岩 泉 町 長
上 机 莞 治	取 締 役	田 野 畑 村 長
深 渡 宏	取 締 役	普 代 村 長
小 田 祐 士	取 締 役	野 田 村 長
須 藤 薫	取 締 役	岩 手 開 発 鉄 道 (株) 代 表 取 締 役 社 長
竹 内 重 徳	取 締 役	岩 手 県 副 知 事
山 口 和 彦	取 締 役	岩 手 県 地 域 振 興 部 長
永 野 勝 美	監 査 役	(株) 岩 手 銀 行 代 表 取 締 役 頭 取
佐 藤 安 紀	監 査 役	(株) 北 日 本 銀 行 代 表 取 締 役 頭 取

(注) 当営業年度中に山口一彦氏、野中良一氏、金沢勘兵衛氏が取締役を退任しております。